

# 「健康フェア」などの企画と継続で生活者の健康をトータルマネジメント



株式会社ひむかメディカル 企画部 部長  
ひまわり薬局小林店 管理薬剤師 **永田 裕介** 先生

宮崎県を中心に39店舗を構える株式会社ひむかメディカル(本社:宮崎県宮崎市)は、「職業を通じて、自分自身の人間性を成長させ、全社員が物心両面で幸せになること。その活動、仕事、人材を通じて人類・社会の進歩発展に貢献すること」を69か条ある理念の筆頭に掲げ、『委員会活動』という独自の取り組みにより、全ての方を対象とした健康のトータルマネジメントを目指す。ひまわり薬局小林店の永田裕介先生は、健康な方にも継続的に介入するしくみとして『健康フェア』の開催を発案し、『健康フェア実行委員会』の代表として、薬局業務の傍ら13年間で25回の健康フェアを企画・運営している。その経緯と現状、今後の展望についてうかがった。

## 健康寿命を延ばすため、未病の方にも継続的に介入するしくみを構築

医薬分業が進み、処方箋を基に適切な薬剤の提供と服薬指導を行う保険薬局が増えてきたが、その対象は処方箋を持参した患者さんやその家族に限られる。そして今、地域に密着したかかりつけ薬局を目指す保険薬局は、全ての生活者を対象に疾患予防と健康維持を広めることで、地域社会に深く根付いた医療機関になることが求められている。

そこで株式会社ひむかメディカルでは、普段は来局しない健康(未病)の方にも薬剤師が継続的に介入するしくみを構築してきた。その中心的役割を担っているのが、健康フェア実行委員会、農業推進委員会、環境委員会、『ひむかの風』編集委員会など、社員が自主的に行っている様々な委員会活動である(図1)。これらの委員会は互いに連携しながら、情報発信(講演や冊子)、食材やレシピの提案、心のケア、植樹活動やウォーキングなど、医療に限らない広い視野で生活者の健康をサポートしている。

活動内容は、各委員会で考案した企画について「時代に合っているか」「相手(患者・生活者)に必要なものか」「いかに連携させるか」などの観点から検討が加えられ、実行の可否が決定される。永田先生曰く「当社では、委員会活動に限らず日々の業務でも、相手からの求めに応じるだけでなく、薬剤師が相手にとって必要だと思うことを積極的に提案する姿勢が求められ、視野が狭くなったり偏ったりしないよう、常に報告と検証を行う体制がある」とのこと。

## 健康フェアは訴求テーマを一つに絞り、改良を重ねながら開催

『健康フェア実行委員会』では2002年11月以降、年2回のペースで健康フェアを開催している。当初は「患者さんによいだろう」と思うものを数多く盛り込んでしまった結果、かえって印象に残らないものになったという反省から、第3回目以降は『Take Home Message』として、伝えたいテーマを一つに絞るところから企画を考えることにしたそうだ。例えば、ある店舗型健康フェアでは『健康長寿の秘訣』をテーマに掲げ、屋外では味噌汁の食べ比べと

ともに、薬剤師が調味料の選び方をはじめ食の重要性に関する解説を行い、薬局内では医師・薬剤師による講演のほか、健康測定(筋肉量、脂肪量、骨密度など)と薬剤師による健康相談を実施した。その際、「各コーナーがつながるように健康相談を最



ひまわり薬局小林店(宮崎県小林市細野397-7)



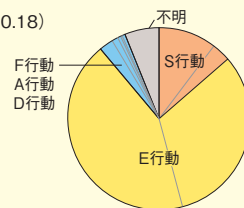
図1. 地域の健康をトータルマネジメント



図2. イベントに対する評価

イベントの参加者に対するアンケートの自由回答を分類し、5段階評価で算出したところ、「とてもよい」と「よい」の評価が全体の89.1%を占めた。

イベント回数：24回(2002.11.10～2015.10.18)  
対象総人数：2,044名



| 自由回答における対象の行動    | 人数(%)     | 行動の評価            |
|------------------|-----------|------------------|
| 生活習慣を改める決意表明がある  | 212(10.4) | S行動<br>(とてもよい)   |
| 具体的な行動の計画がある     | 68(3.3)   |                  |
| 次回開催を希望する        | 657(32.1) | E行動<br>(よい)      |
| 今回の参加を楽しめた       | 884(43.2) |                  |
| 特に感想はない          | 52(2.5)   | F行動<br>(ふつう)     |
| 想定通りのイベントであった    | 22(1.1)   | A行動<br>(あまりよくない) |
| 何かしら物足りなさを感じている  | 13(0.6)   |                  |
| 自分の生活や言動には結び付かない | 2(0.1)    | D行動<br>(よくない)    |
| 不満足な点がある         | 4(0.2)    |                  |
| イベントの趣旨が理解できない   | 8(0.4)    |                  |
| 不明               | 122(6.0)  | —                |

後に設け、測定結果などを踏まえて一人ひとりに合わせた健康寿命を延ばすための提案を行った」と永田先生。また、健康フェア実行委員会と環境委員会が連携して開催している野外型健康フェアではウォーキングイベントを行い、休憩時には参加者の体調確認とともに3分程度のミニ講演を行い、ある時は「1日8,000歩を目指すこと」を、またある時は「ウォーキングと生活習慣病のつながりを理解すること」を訴求した。

2017年6月時点で25回の健康フェアが開催されているが、常に「前回の反省点を改良し、前回と同じことはせず何か+aを加える」をモットーに改良が重ねられてきた。例えば、開催時期は巷のイベントと重ならないようにあえてずらす、開催場所となる店舗は新規開局や開局周年記念などに合わせるといった配慮がなされたり、イベントでは店舗の近隣にある食料品店や飲食店などに連携を依頼し、薬剤師がプロデュースした健康志向のオリジナル弁当などの販売を介して食の提案を行うといった試みを取り入れられたりするようになった。

**約9割の参加者が好評価、  
薬剤師のモチベーションも向上**

健康フェア開催時には参加者に対してアンケート調査を必ず実施しており、過去24回(2002年11月～2015年10月)のアンケートを基に、その影響力を数値化して検証したところ、約9割が「とてもよい」「よい」と評価していた

(図2)。実際、イベント実施後に薬局窓口で「今度、いつありますか」など開催を待ち望む声が多く聞かれると、永田先生は話す。特にウォーキングの場合は、毎回同じ場所で開催していることもあり約2割がリピーターで、薬局の患者さん以外の参加も多いそうだ。病院との提携、保険加入、AEDや車椅子の配備も功を奏してか、高齢参加者のニーズは特に高く、「いきなり運動を始めるのは不安だし、家族にも止められるけれど、このイベントは若い人が一緒に歩いてくれるし安心だ」との声が寄せられている。さらに、地域の開業医から「健康フェアに参画したい」との声がかかることも増えてきたという。

このような反響を受け、永田先生は「健康フェアを継続することで未病の方の健康意識を高め、正しい情報への理解を深めることができるのではないか」と推察する。「それはきっと薬剤師のモチベーションアップにもつながるだろう」と。しかし、薬以外の分野における知識・経験は薬剤師間でも個人差が大きいので「活動を継続するためには、私たちが視野を広くして情報収集に努め、学び続けなければならない」と、永田先生は意気込む。当初は健康フェアに参加するスタッフを集めるのも困難だったが、回を重ねるごとに店舗を越えた関係性が深まり、皆が同じ方向を向くようになったことで、人手も自然に集まるようになったそうだ。今後も、社員の向上心、研鑽、能力を発揮・循環させる企画を継続することで、薬剤師の社会的認知度を高め、職能を拡大していきたいと永田先生は結んだ。